

平成 27 年度第 2 回福祉サービス運営委員会が 3 月 4 日本部会議室において開催された。大久保委員長挨拶の後、事務局および各施設の現状と苦情や要望の状況が報告され協議が行われた。

1, 本部事務局

苦情要望等はなし。

2, 別府厚生館～13 世帯 43 名（未就学児 16 名）

- 苦情～ 隣の子どものたちの騒ぐ声、足音がうるさくて眠れない。
- ヒヤリハット（10 件）
 - ・ 児童のけんか、母親の暴力、兄弟げんか
 - ・ 入浴中に幼児がぐったりとする
 - ・ 児童がパニックとなり居室で暴れる
 - ・ テレビの破損
- その他
 - ・ 館内保育体制の充実
 - ・ 心理職員のカウンセリングに基づき、児童生徒の気持ちや間が方を尊重した支援
 - ・ 母親のカウンセリング増加（森の木職員の応援）

3, うえの園・清明あけぼの学園

うえの園 20 名（定員 20 名）生活介護 定員 20 名、日中一時支援・短期入所定員 2 名、相談支援事業所
清明あけぼの学園 10 名（定員 10 名）、日中一時支援、短期入所 定員 2 名

- 要望～車から玄関まで歩くのがきつく不安。自分の荷物は常に傍らに置きたい。
- 苦情～集会所で待機している間寒かった。職員の声かけに不安を感じた。
- ヒヤリハット～事故発生につながると考えられる事項について整理、全職員で共有
 - ・ 転倒（2 件）服薬～チェックミス(2)不意の行動～玄関や園庭に単独で移動（2 件）
 - ・ 単独外出者が予定時刻を過ぎても帰園せず捜索願～以前自宅があった場所を訪問
 - ・ 利用者の職員への暴力
 - ・ ホームページ上の FAX 番号の記載ミス
- リスク共有ノート～事故発生につながるような事項を整理し、全職員で共有
- 虐待防止～講師を招聘し研修、虐待防止委員会でチェックリストによる自己評価
- 感染症対策・防災委員会の充実～予防対策、避難訓練（津波想定）

4, 森の木～本体施設 42 名 地域小規模 11 名（定員 52 名）被虐待児童入所率（71.4%）

子育て支援事業（ショートステイ 22 名 43 日、トワイライト 6 名 6 日、里親レスパイトケア利用者増）

- 苦情等
 - 聴き耳頭巾相談～他児から嫌がらせ。他児との関わり方がわからない。学校でいじめられる。
 - 保護者から～施設と児相で勝手に話を進める。退園関係書類を渡すのが遅い。
 - 地域から～山羊をつないでほしい。菓子を送ったのに礼状がない。
- ヒヤリハット～車の事故（6 件）～安全運転マニュアルの周知、児童同士のトラブル～シエル分析を実施、
- ハラスメント委員会～投書箱の設置（投書 0 件）

5, 滝尾保育園～167 名（定員 140 名）当局より待機児童対応のために、保育室面積に応じた人数の受入を依頼

- ヒヤリハット～リスク委員会により、事故前のヒヤリ収集
 - ・ ロッカーや柱の角対策実施、園庭での躓き、転倒が減少。
 - ・ 頬や手足への噛みつき（0・1 歳児）・竹馬練習で足の皮をすりむく
 - ・ ブロックで作った車を走らせていて滑り舌と唇を噛む～囑託医の指導で看護師が処置

- ・おたふく風邪（25名職員1名）インフルエンザA（54名職員4名）

○その他

- ・防災訓練～小学校、近隣幼稚園、保育園との連携
- ・リスク委員会でマニュアルの見直し～図式化
- ・食物アレルギー対策のために、調理員の増、調理設備等の改善

6、明野しいのみ保育園～143名（定員138名）

○苦情

- ・園児の同士の遊びの中での傷について園児の状況把握と爪が伸びてないかの確認を
- ・発熱時の保護者連絡の基準は～38℃であることと状況により早めの連絡をしている。

○ヒヤリハット

事故や怪我につながりそうな事柄を付箋に記し事務室壁に添付～リスク管理委員会から全職員への周知

- ・怪我 保育室で転倒顎下裂傷～室内を再点検し、柱等の角処理

○感染症等～手足口病、マイコプラズマ、溶連菌感染症、感染性胃腸炎、インフルエンザ等多種

手洗い・うがいを丁寧に行うように支援を徹底したことで蔓延することはなかった。

○食物アレルギー～対象園児7名、成長に伴い減少傾向

○職員の状況～職務中の怪我1件（臼を片付け時、左中指先端を骨折）

○課題～自己目標設定（目標管理）、第三者評価受診への取組

協議

利用者家族から

- ・子どもの表情、状況をよく把握している。また、うがい・手洗い・体力作りなど日常の取組のおかげでインフルエンザに罹患する子どもが少ない。
- ・いろいろな施設があると大変だと思った。うへの園の行事は工夫されており、地域の方々の参加も有り楽しい。
- ・交通事故の件についてはドライブレコーダー等の設置も必要ではないか。

第三者委員から

- ・森の木もこれまでの苦労を顧みると、多くの方々の協力も有り相互理解が進んで来た。十周年記念行事を見ても地域とも連携ができています。
- ・厚生館は地域行事にも積極的に参加している。今後とも互いに連携していきたい。
- ・一般的にリスク管理、コンプライアンスに対する取組が向上している。一方職員に加重負担にならないような配慮も必要である。メンタルヘルス、モチベーションを保つための取組も重要である。また、服薬については他の事業所、病院等の事例も参考にしながら検討を進めると良い。

最後に「人口減少社会への突入という状況のなかで、子どもを中心とした施設の役割はこれまで以上に増大している。また、高齢化にどのように対応するかも課題である。各施設をフルに活用して対応していきたい。そのためにも、うへの園清明あけぼの学園の大規模修繕、滝尾保育園の改築等を進めている。理念の具現化に向けて職員の皆さんも努力しているが、さらなるチャレンジを期待すると共に、法人としても体制の強化などに取り組んで参りたい。本日は、かけがえのない貴重なご意見ありがとうございました。」との有松会長の言葉で運営委員会を終了した。